

第8回 上質な寄港地観光ツアープログラム の造成に向けた意見交換会概要(ポナン社)

- ポナンの伊知地ビジネスディベロップメントマネージャーより、主に以下の内容のプレゼンテーションが行われた。
 - 日本周遊クルーズは極地クルーズに次ぐ人気航路であり、今後の配船増も議論されているディスティネーションである。
 - ポナンには2つの特徴がある。1つは小型であることを誇りとしていること。大型船が入れない港、大型船では提供できないサービスを重視したい。もう一つは環境への配慮を重視していること。重油は既に全廃している上、2020年のSOx規制に対しても全船が4分の1程度の排出量である。
 - 2021年6月には、世界初の日本近海でのゾディアック(※)対応エクスペディションクルーズを沖縄で行う。これが成功したら、日本でも継続的にエクスペディションクルーズを実施し、瀬戸内海、ひいては北海道の島嶼部を周遊することも検討していきたい。

※ポナン社がクルーズで使用する上陸用ボート

- 各港のプレゼンテーションや質疑において、伊知地ビジネスディベロップメントマネージャーから主に次のようなコメントがあった。
 - 体験型ツアーの提供だけではなく、寄港地での地場産品を船内に輸入することにも興味がある。地域の食材を購入するという形で地域貢献に繋がる取組を、寄港地や国土交通省港湾局等の関係機関と協力して実施したい。
 - 対アウトバウンドでの日本市場という観点から船を入れなければならない港はどこか、クルーズ発着を最も効率的・魅力的にできる港はどこか、発着港における出発前、到着後の寄港地観光で参加率を高められるようなプログラムが組める港はどこか、の3要素を重視して発着港を決める。
 - ポナンの乗客はリピーターが多いので、外国人であっても日本人向け商品の方が良い。日本人が体験したくなるプログラムを提案して欲しい。